



令和4年度

第72回 “社会を明るくする運動”

# 大田区民のつどい

#生きぐらさを、  
生きていく。

7月16日に開催を予定していた第72回“社会を明るくする運動”大田区民のつどいは新型コロナウイルス感染者数の急増により誠に残念ながら直前に中止となりました。この度、限られた内容ですが紙面でお伝えすることになりました。ぜひご覧下さい。

“社会を明るくする運動” 大田区推進委員会

# ご挨拶



## 大田区長 松原 忠義 (社明 大田区推進委員会委員長)

日頃より大田区政並びに当運動を代表とする更生保護活動に御尽力・御協力を賜り、誠にありがとうございます。

本来でしたら、今回の大田区民のつどいにおいて、3年ぶりに皆様にお会いでき、また、中学生の生徒さんによる意見発表、都立美原高等学校和太鼓部の皆さんによる演奏が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染者数の急増により、やむなく、開催を中止することになり、誠に残念な想いです。

大田区の“社会を明るくする運動”は、構成団体である、「大田区保護司会」をはじめ、自治会・町会、青少年対策地区委員、民生委員児童委員、PTAなど地域の方々と、区をはじめとする教育、警察などの関係機関・団体の力を結集し、各地域に根差した意欲的な取り組みを行っていただいております。ここ数年は感染拡大予防のためあらゆるイベントを縮小、又は中止せざるを得ない状況となっております。そのような中、保護司の皆様をはじめ、地域の皆様の熱意によって、昨年は、地区集会でのオンラインを利用したイベ

ント、当運動のPR用の動画をインターネットで配信、ぬりえギャラリー・意見発表会等、アイデアにあふれた催しが開催され、新しい活動がたくさん誕生したことに大変嬉しく感じております。今後も、明るい地域社会の実現に向け取り組んでいただきたく、お願い申し上げます。

また、「再犯防止」についてですが、犯罪や非行からの立ち直りには、地域での見守りや理解等、生活に密着した息の長い支援がより重要だと感じております。

区では、「大田区再犯防止推進計画」を策定し、本年1月には「第1回大田区再犯防止推進会議」を開催いたしました。委員の皆様と意見交換、再犯防止に対する問題の共有、今後の活動への機運を高める機会となりました。この推進会議を中心に、毎年度皆様と地域の課題を共有しながら、実効性のある再犯防止対策を進めてまいります。

最後になりますが、当運動への御理解を更に深めていただくとともに、皆様方の益々の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。



## 大田区保護司会 会長 海老澤 信吉

大田区保護司会会長の海老澤信吉です。今回、“社会を明るくする運動”大田区民のつどいは第72回を迎えました。新型コロナウイルス感染症の対策として、直前で中止となりましたが、日頃から委員の皆様からは多大なる御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、保護観察の件数は平成14年をピークに減少し、一時の三分の一にまで減少しました。しかし、こここのところその減少傾向が鈍ってきています。

この状況に対応するため、大田区では令和3年3月に大田区再犯防止推進計画が策定されました。

この計画では、就労と住居の確保に向けた相談・支

援を生活福祉課、建築調整課をはじめ、雇用する企業を開拓・確保するため、総務課、生活安全担当課、教育委員会など大田区総力を挙げての対策を掲げています。

保護司会としても、特別出張所、自治会連合会をはじめ、更生保護関係機関・団体とさらに緊密な関係を図り、大田区らしい再犯防止推進計画に協力し、実行してまいりたいと思います。

今年の区民のつどいも、いつもの様に中学生の意見発表に続いて、都立美原高校の和太鼓が予定されておりました。生徒の皆様へのつどいに向けての練習、準備する姿勢に感服いたします。

最後になりましたが、つどいの実施にあたり、皆様に御礼を申し上げます。



第72回を迎えます“社会を明るくする運動”大田区民のつどいは、新型コロナウイルスの影響で今回はリーフレットの配付となりましたが、皆様方におかれましては安全で安心な地域づくりのために、日頃より多大なるご尽力をいただいておりますことを心より御礼申し上げます。

私達は犯罪の無い社会をつくることが何よりの目標ではありますが、過ちを犯し、立ち直ろうとする人々を受け入れ、共に歩む地域社会をつくることも非常に重要なことであります。

長らく新型コロナウイルスの影響で、地域の繋がりが、人と人との関係が希薄になってきたと言われ

ております。誰かに相談したい、手を差し伸べてもらいたい。そのような時に寄り添ってくれる人がいない不安や心細さが募ることもあろうかと思えます。そのような人たちをひとりにしない、させない、思いやりと心が通い合えるまちをこれからも皆様方とつくり上げたいと思っております。

そのために一人ひとりができることを考え、小さな一歩から皆様方と共に歩み、そして大きな社会運動に繋げていきたいと思っております。

大田区が掲げる地域力で、安全安心で、そして優しいまちをこれからも皆様と共に作り上げて参りましょう。

これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 東京保護観察所長 生駒 貴弘



大田区民の皆様には、平素から“社会を明るくする運動”及び更生保護活動に多大なる御理解・御支援をいただきまして、心から感謝申し上げます。

“社会を明るくする運動”は、今年で第72回を迎えました。昨年の第71回からは、「#生きづらさを、生きていく。」をメインコピーに、犯罪や非行の背景にある、孤独や孤立などにつながる様々な“生きづらさ”に思いを致し、その“生きづらさ”を包み込む、多様性と包摂性のあるコミュニティづくりを目指して、運動が展開されています。

また、本運動の強調月間である7月は、再犯防止推進法に基づく「再犯防止啓発月間」でもあります。幸いにして、犯罪の発生件数や刑務所出所者の再入所率等に関しては、引き続き減少傾向を続けており、再犯防止対策の効果は着実に現れてきているところです。

皆様には、引き続き“社会を明るくする運動”への御理解と御支援をお願いいたしますとともに、立ち直ろうとする人を包み込む、犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を作っていくために御協力いただきますようお願いいたします。挨拶とさせていただきます。

## 大田区立中学校 PTA 連合協議会 会長 須山 健二



大田区立中学校 PTA 連合協議会会長、出雲中学校 PTA 会長の須山と申します。

日頃より地域の皆様には、子ども達を見守っていただき、ありがとうございます。

第72回社会を明るくする運動のテーマは、「#生きづらさを、生きていく。」です。

先が見えないコロナ禍において、大人も子ども達も不安を多く抱え、生きづらさを感じていると思います。「なんだか生きづらく、幸せと感じたり、心が満たされる瞬間がない」日々このように、感じている子ども達は少なくないのではないのでしょうか。そんな毎日を送っていたら、将来に対して希望や夢も持たなくなってしまいます。

では、何故生きづらさを感じてしまうのでしょうか。

SNSを含むネット社会が拡大したことが原因で、周囲や人の情報に接する機会が増え、何をするにも誰かと比較し周囲の目が気になり、自分主体に人生が生きられなくなったからです。何かにつけて人と比較して落ち込んでしまい、比べるがゆえに、ネガティブ思考になり心が満たされない毎日を送るようになってしまいます。人と比べてしまう原因は、自信の欠如です。これを払拭するには、自信を持つ事であり自分を価値ある人間だと思ふことです。これがないと、何をしても「他人と比べて自分は…」となり自信を持てなくなってしまいます。また、自分の強みをベースに生きないと常に不安定な状態で自分に自信は持てなくなってしまいます。

子ども達が強みを持ち、新しいチャレンジをしていく背中を、中学校 PTA として支えていきたいと思っております。



## 「孤独感」のない社会へ

大田区立矢口中学校三年 石垣 ななか 菜々花

現在、産業の発展やインターネットの普及によって一人でも何不自由なく過ごす事ができるようになってきました。さらに2020年からは新型コロナウイルス感染症の拡大によって人と面と向かって話さずとも、インターネットを活用する事で成り立つ、といった事が急激に増えたと思います。そんなインターネットに頼る社会は、私達の生活を便利にしてくれましたが、その一方で多くの人に「孤独感」をもたらしました。そして望まない孤独を感じていると、それはいつしか「生きづらさ」へと変化を遂げ犯罪に手を染める人もいるかもしれません。犯罪の原因となりうる孤独感を多くの人が抱えている現状に「明るい社会」とは言えないと私は考えます。インターネットが普及した今だからこそ、私達にとって人との繋がりがより大切になるのではないのでしょうか。

犯罪は誰もが望んでいない事です。しかし、犯罪が起こらなかつた日はありません。では、犯罪を犯してしまった人は、果たして本当に犯罪を望んでいたのでしょうか。

私はある時「少年院」に密着したドキュメンタリーを見ました。ドキュメンタリーを見る前は十代で犯罪を犯すなんて想像すらできない、どれだけ捻くれた人達なのだろうか、そのような偏見がありました。しかし、少年院に入った人達から発せられた言葉は偏見を持っていた私に衝撃を与えました。ある人は「少年院に入って初めて期待されて嬉しかった。」またある人は「少年院にいる教官は僕を見捨てないでいてくれた。」と言っていました。つまり、彼らは罪を犯して少年院に入るまで、寄り添える人や信頼できる人がいなかったのです。それがどれだけ寂しく孤独であったのだろうと考えさせられました。気軽に話せる環境がなく、一人で押し潰された結果が「犯罪」なのです。

しかし私達は、同じ人間だからこそ犯罪が起きる前に、相手を理解してあげられたり、相手も悩みを打ち明けたりする事ができます。そうした人

間による心の支えが孤独感を感じている人を減らし、犯罪を防ぎ、明るい社会を創っていく第一歩になると私は考えます。

しかし、明るい社会を創ると言われてもどうすれば良いのか分からない、という方はいませんか。私も同じ事を思っていました。そのような人はまず周りの人に笑顔で挨拶をする事から始めてみて下さい。挨拶というのは中国の言葉で、心を開いて歩み寄るという意味があります。まさに人との繋がりが必要不可欠な現代の私達に最適な言霊なのです。

また、犯罪をしてしまった人が社会復帰する時にも人の力が必要です。現在、刑期を満了し刑務所を出所した人のうち約50%が再び入所しています。さらにその割合は年々増加しているのです。その背景には、社会的孤立が挙げられます。更生して出所したものの、世間から厳しい目を向けられ、部屋を借りる事すら難しく、住所がないと就職面接でも相手にされません。元犯罪者を採用するのはリスクが高すぎるという声も多いでしょう。そうした社会的孤立は元犯罪者に孤独感を与え再犯の原因となります。再犯が増えるという事は新たな被害者を生むという事です。

その負のサイクルを起こしてしまっているのは紛れもなく、私達が創った地域社会です。そしてその負のサイクルから元犯罪者を救えるのもまた私達です。私達は元犯罪者が新たな心で生活できるように地域全体で連携しあい、温もりのある地域社会を築いていくべきです。

インターネットの普及や新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、昔と比べて人とのコミュニケーションを取らなくなっている今、一人ひとりが周りとの繋がりに感謝し、自分の身近な人達からでも助け合いの輪を広げていく事が孤独感を感じている全ての人へのエールになる、そう思いました。そしていつか、「孤独感」という言葉がなくなるくらい、平和な社会にしていきたいです。



# 挨拶から始まる社会

大田区立御園中学校三年 小林 <sup>かのん</sup>夏音

挨拶は何のためにするのだろうか。私は普段、学校や習い事の際に挨拶を大切にしている。挨拶をすることは大切だ、ということは、多くの人が理解していると思う。しかし、挨拶をすることはどうして大切なのだろうか。私はこの機会を通してその疑問について考えることにした。

私は、小学校の頃から社会を明るくする運動に参加したり、中学校で生徒会に入り、朝登校してくる人たちに挨拶をしてきた。そのような活動をしていく中で、なぜ挨拶は社会で生きていく上で必要なのだろうかと考えた事が増えた。疑問に思うことが増えたとき、私は、以前担任の先生がおっしゃっていたことを思い出した。挨拶は相手の存在を認めるという意味があるということである。このことを思い出した時、これは校内だけでなく、社会にも通用することだと感じた。犯罪を行ってしまった人の中には、関わりのある相手がおらず、自分の存在が認められていないと感じる人がいると聞いたことがある。また、それによって、「不安」を持つ人がいるということも聞いたことがある。もしかしたら罪を犯してしまった人はあまり地域との関わりが多くないから不安を感じるのではないか。そう考え、インターネットを使って、そのような事例があるのかを調べてみることにした。

警視庁の調査によると、犯罪を行おうとした人が犯行を諦めた理由の多くに「地域の人に声をかけられた」という意見が挙げられたそうだ。その例として、ある地域のお店では、様々な防犯方法を取ってきたが、なかなか成果が出ず、挨拶活動を取り入れた結果、一年間で30%も万引による被害額が減ったという事があったそうだ。これらの事例から、地域の人と少しでも関わる機会があれば「不安」という感情が少しでも減る

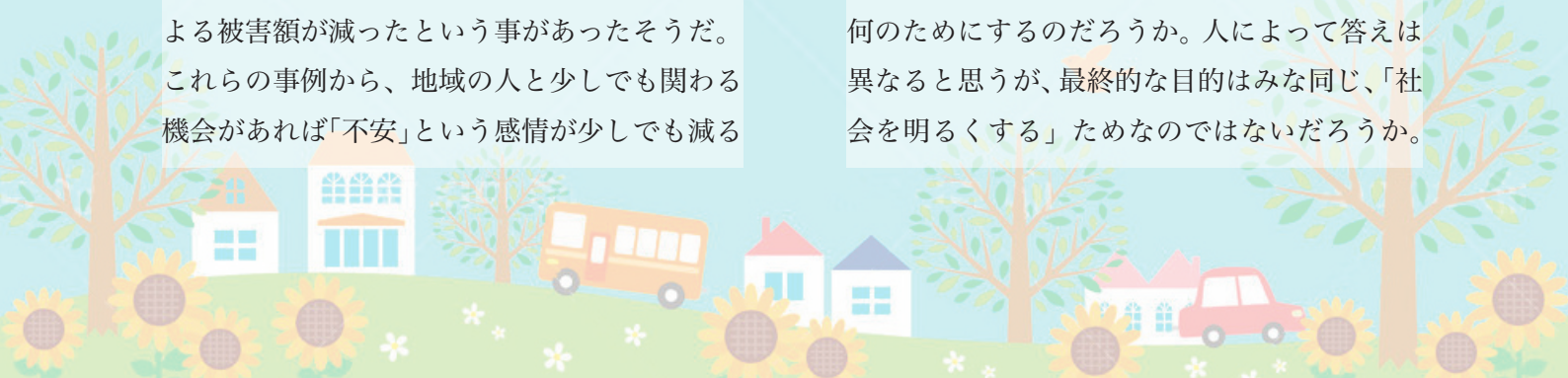
ということが言えるだろう。

私たちの「社会を明るくする」という目標を達成するための第一歩として、まずは地域でもっと気軽に挨拶ができるようになることが重要なのではないか。明るく挨拶する声が町中に増えれば、おのずと、地域が明るくなり、その明るさが犯罪の減少につながっていくのではないかと思う。そのため、普段何気なく行っている挨拶をより意識して行うことが大切なのではないかと考えた。

また、罪を犯してしまった人の多くは立ち直り、社会復帰を目指すことだろう。その人たちのために、私たちは、社会復帰を目指す人たちのことをしっかりと理解し、受け入れることが大切だと思う。これにもやはり挨拶という簡単なコミュニケーションをとることが、「理解して受け入れる」ということのきっかけになると思う。

これから社会を明るくしていくのは私たちである。明るい社会を作るためにはまずは、挨拶から始め、地域の犯罪を減らすのと共に、地域全体の明るさを向上させていくことが大切だと思う。また、それを地域だけでなく、社会につなげていこうという意識が重要だと考える。コロナ禍のもと、近隣のつき合いが減った中でもちょっとしたコミュニケーションから地域は大きく変化するだろう。私たち一人ひとりが関わりを深めるために、どのようにコミュニケーションをとるべきかを少しずつ意識していくことによって、地域社会はより良いものになると思う。

では最後にもう一度聞きたいと思う。挨拶は何のためにするのだろうか。人によって答えは異なると思うが、最終的な目的はみな同じ、「社会を明るくする」ためなのではないだろうか。





# 社会を明るくする運動

大田区立蓮沼中学校三年 阿久津 <sup>もも</sup>百萌

「社会を明るくする運動」とは全ての国民が犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人の更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせて犯罪や非行のない安全で安心な明るい社会を築くための全国的な取り組みです。私はこの運動について調べていく中で犯罪や非行をした人の更生について考えました。

お金を払わずにものを奪おうとする人や人を騙してお金を奪おうとする人、人の命を奪う人など「犯罪者」と呼ばれる人は、私が日々ニュースでみる限り、悪い人や怖い人というマイナスなイメージなものでした。そして、犯罪とは守らなくてはならないことを守れなかったことであり、絶対に許されてはいけないことだと思っていました。しかし、社会を明るくする運動についてさらに調べていくと、一度罪を犯した人が再犯することを防ぐためにも、罪を犯した人の立ち直りを支えることも必要であると思うようになりました。

日本では現在、二十歳に満たない人を少年とし、その中でも十四歳以上の罪を犯した少年を犯罪少年、十四歳未満で犯罪をした少年を触法少年、性格や環境に照らして将来的に罪を犯す、刑罰法令に触れる恐れがあると認められる少年をぐ犯少年と定義されています。


二十歳未満の犯罪は万引きや詐欺、薬物乱用が多いとされています。理由としては、二十歳未満の犯罪は年齢によって罪が軽くなるので、「このくらいしても逮捕なんてされないから大丈夫」という気持ちで行動に移す人がいる一方で、親から虐待を受け、ご飯を与えられない状況が続き、万引きをせざるを得ない人、ネグレクトなどにより、居場所がなく、遅い時間に歩いでし

まい、悪い大人から誘われて薬物に手を出してしまう人がいると考えられます。このように自分では変えようのない環境による要因があると思います。

以上のように、自分の力で防げる人と自分の力では防ぐことができない人がいるので、環境によって犯罪をせざるを得なかった人の立ち直りを支えるべきだと思います。また、環境によって犯罪をしてしまうのは子どもだけでなく大人も同じだと思います。子どもの更生だけでなく大人の更生に対しても理解を深めていくことが私たちにはできることだと思います。

私が初めて社会を明るくする運動を知ったとき、なぜ犯罪をした人が法律に守られていくのか。もっと被害を受けた人を守る活動の方を優先するべきなのではないかと思っていました。しかし、この運動では、犯罪をした人が大人に守られているのではなく立ち直るにあたって不利になった部分や、一度失ったものを取り戻すために頑張ろうとしている人を支えていることに気づくことができ、それが再犯を防ぐことに繋がると思いました。また、私たちが「犯罪をした人だけが悪いのではなく、犯罪者を生みだしてしまった社会も悪い。」という考えをもつことで、犯罪をした人が社会にできることに抵抗がなくなり、希望をもって生活ができるようになると思いました。

犯罪とは自分が思っている以上に身近にあり、いつ加害者になるのか、被害者になるかわかりません。犯罪を犯すということを他人事に考えずに社会を明るくする運動について知ることから始めることが、私たちが犯罪を防止する一つの方法であると思います。





# 和太鼓

## 都立 美原高等学校 和太鼓部

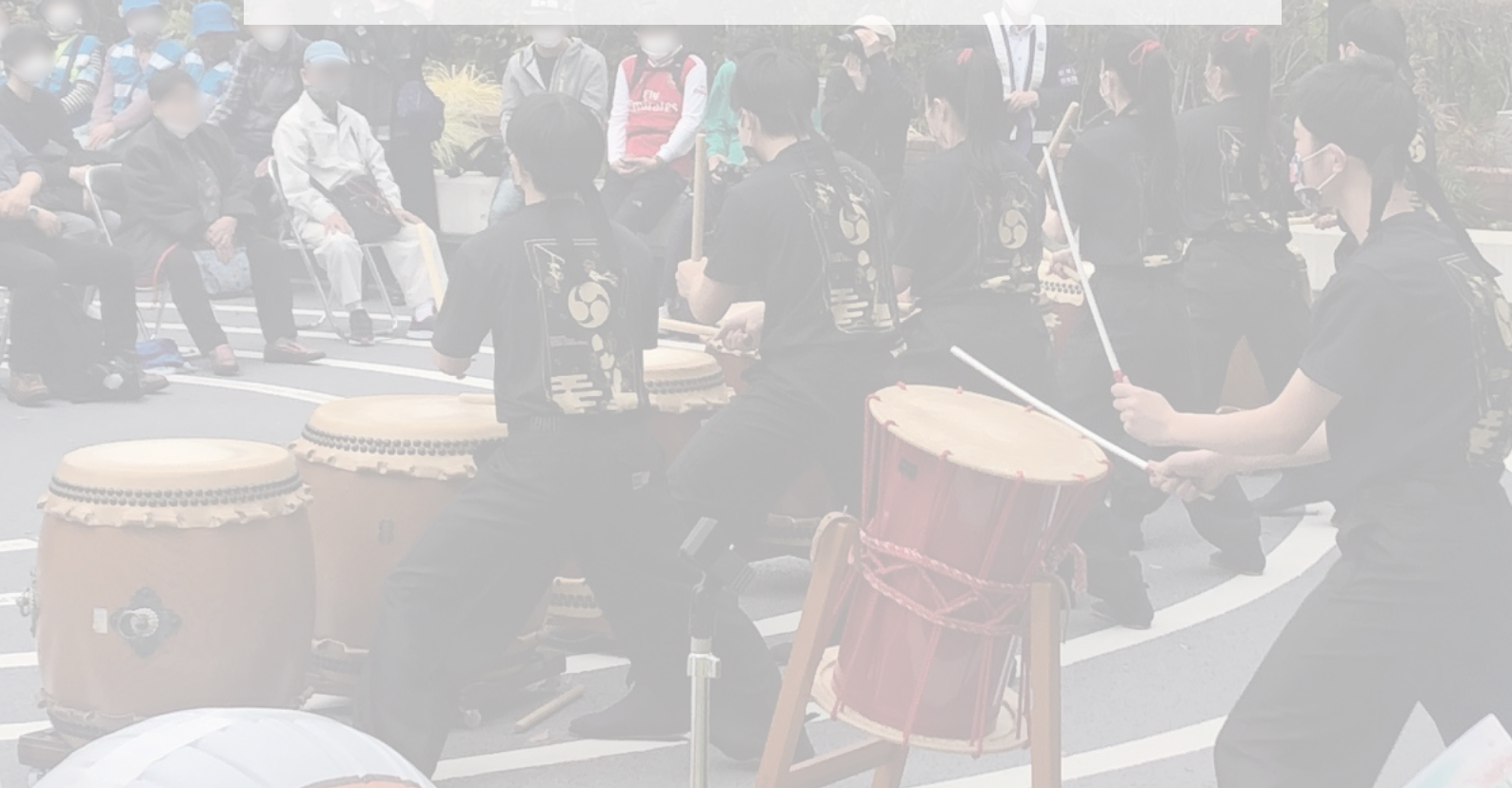
皆さんこんにちは。

美原高校和太鼓部、和心響華（わしんきょうか）です。

私たちは「人の心に響く愛情のある演奏」を掲げ、仲間たちと切磋琢磨し日々練習に励んでいます。

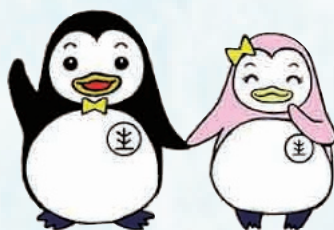
地域の依頼演奏や各種大会に積極的に参加し、様々な賞を受賞させていただいております。今年は念願であった和太鼓の甲子園と言われる「全国高等学校総合文化祭」にも出場が決定しております。

皆様に演奏をお見せすることができず非常に残念ではありましたが、全国大会や今後の演奏活動に向けて全力で頑張ってまいります。





～犯罪や非行を防止し、  
立ち直りを支える地域のチカラ～



発行：「社会を明るくする運動」大田区推進委員会  
事務局 大田区総務部総務課  
大田区蒲田 5-13-14 TEL. 03-5744-1142 (直通)

### 「社会を明るくする運動」大田区推進委員会 構成機関・団体 (34 機関・団体)

大田区  
大田区教育委員会  
区内各警察署  
大田区保護司会  
大田区桐友会  
大田区自治会連合会  
大森医師会  
蒲田医師会  
田園調布医師会  
大森歯科医師会  
蒲田歯科医師会  
大田区薬剤師会  
蒲田薬剤師会  
大田区青少年対策地区委員会  
大田区更生保護女性会  
大田区保護観察協会  
大田区防犯協会  
大田区BBS会  
大田区立小学校PTA連絡協議会  
大田区立中学校PTA連合協議会  
大田区母の会連合会  
大田区民生委員児童委員協議会  
大田区婦人団体連合会  
大田区立小学校長会  
大田区立中学校長会  
大田区社会福祉協議会  
大田区退職校長会  
大田区私立幼稚園連合会  
大田区商店街連合会  
東京都薬物乱用防止推進大田地区協議会  
大田地区人権擁護委員会  
大森少年センター  
おおた社会福祉士会  
おおたTSネット

(順不同)

